

### 3足のわらじ

我が工藤家は、この辺では珍しい四世代7人家族というなかなかの大家族である。家族構成は、母81歳、私52歳、息子30歳、息子の嫁30歳、娘30歳、愛孫6歳、愛孫3歳。それに今年20歳になる老猫、5歳と3歳の猫、おまけに昨年仲間になった犬。笑い声に罵声にとまあまあ賑やかすぎる毎日。

この7人家族の中で、仕事をしているのが私を筆頭に息子、娘の三人。有難いことに息子にも娘にも私の会社を手伝ってもらっている。息子の嫁さんはもともとサラリーマンのお家から我が家に嫁いできた。お腹に赤ちゃんを授かっていたことと、私も仕事で家を空けることが多いため、家を守ってほしいと専業主婦になった。酒田では女性活躍推進に力を入れていく中で、工藤家はそれに反しているということになる。

二人目の子を授かったとき、つわりがひどく、家事という家事が何もできなくなった嫁さん。可哀想に体重もぐんぐん減っていく。私はと言えば、会社ではある程度自由に時間を使えるので、買い物に行き皆のご飯をつくり、夜は少々お酒を頂き気絶するように寝るという毎日。2番目が生まれ嫁さんは1番目の孫を置いて実家に帰ってしまったので、1番目の孫を私が会社に連れていき、朝礼でラジオ体操をしてから幼稚園バスに乗せる。もちろん食事の支度、愛孫の世話、仕事もそれなりにこなしてきた。

4年前に親父殿が他界し、私が世帯主になり今日現在に至るが、税金はじめ生活にかかる費用の多くは私の給与から引かれていく。

2番目の孫と嫁さんが我が家に帰ってきて早3年。「工藤さんとは賑やかでいいねえ」などといろんな人から言われ、「そうですねえ、幸せですねえ」と返すものの、私だって感情ある人間。母が嫁さんの料理が苦手なため、相変わらず食事の支度は私の役目。職業が「専業主婦業」の嫁さんは時間の縛りが無いせいか、性格が私と真逆でのんびり屋さんのせいかは知らぬが、家事負担はあの時からそれほど変わっていない。孫たちが幼稚園に行ってる間は嫁さんはパラダイス。大好きなお饅頭やドーナツを「家計費」で購入し、いつの間にか、あの細かった身体もそれはそれは大きく成長した。

私も一度は専業主婦業に専念したことはあるのだが、お金にも時間にもまったくゆとりがなかったため、嫁さんのそのあらゆるマイペースさに対して、「私は財布でも家政婦でもない！！」と感情の大爆発が起きる。

会社では社長、家庭では家長と主婦兼務の3足のわらじ。イライラせず、すべてに奉仕の心をもって。仕事もロータリーも、そして、家庭も。

ああ、愛孫の小学校入学準備（お裁縫）しないとなあ……（ふう）。